

天中だより 克己

文責 亀山誠彦
平成27年9月4日(金)



全国学力学習状況調査の結果を受けて

4月に3年生が行った「全国学力・学習状況調査」の主な結果についてお知らせいたします。

【学力調査について】（見方：県、全国平均を上回っていれば◎、ほぼ同じならば○、下回っていれば△）

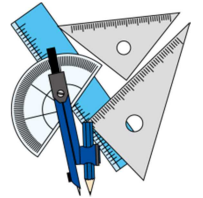
科目	県平均比較	全国平均比較
国語A（主として知識）	○	○
国語B（主として活用）	△	○
数学A（主として知識）	◎	◎
数学B（主として活用）	◎	◎
理 科（知識・活用）	◎	◎

<国語の分析> 「読むこと」については、A問題（主に知識）もB問題（主に活用）も県や全国平均と大きく変わらない。しかし「書くこと」については、A問題、B問題どちらでも県・全国平均を下回っている。「表現として適切なものを選択することや、課題に対して「自分の考えを書く」ことがやや苦手である。

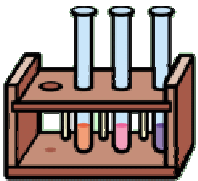


「話すこと・聞くこと」については、「状況に応じて資料を活用する」ことは県・全国平均より高いが、「相手にとって分かりやすい語句を選択して話す」ことなどが県・全国平均を下回った。

<数学の分析> 「図形」「関数」「資料活用」の三領域は、A問題、B問題ともに県・全国平均を上回った。「図形」については図形の基本的な性質の理解やその活用についてはどの内容についてもできている。しかし、それら性質を組み合わせ活用し、論理的に説明していく証明がやや苦手である。



「数と式」は、A問題、B問題どちらも全国平均以上であるが県平均は下回った。一次方程式を解く力はあるものの、正の数と負の数の加減乗除の理解がやや不足して間違えている。



<理科の分析> 「物理」「化学」「生物」「地学」の四領域とも、県・全国平均を上回った。特に生物分野は大きく上回った。しかしどの領域でも、実験結果やグラフを分析して解釈し、何が言えるのかを指摘する問題や、目的に沿った実験計画を立てる問題などは、県・全国平均を下回っている。

【改善点】

<国語>では「(課題に対して)自分の考えを書くこと」、<数学>では「図形の性質を組み合わせ論理的に証明していくこと」、<理科>では「実験結果から分析して解釈して何が言えるのか書くこと」に課題がある。いずれも「書くこと」である。今後「書く力」をつけるために、国語では語彙力や作文を書く上での基本的な構成、数学では証明をする上での基本的な流れや押さえ、理科では考察で何をどう書くのか等、基本をしっかり身に付けさせることと、【学習課題】をより明確にして、生徒一人一人が自分の問いや思考、分かったこと等を整理して綴っていく「ノート指導」を重点化して取り組んでいく必要がある。

(例) 国語…作文の骨子、素案、清書、振り返り

数学…証明での仮定と結論の明確な記述、振り返り（それ以外に、計算の反復練習）

理科…実験の目的、方法、結果（グラフ・図・表）、考察、振り返り



【学習状況調査について】（見方：県、全国平均を上回っていれば○、ほぼ同じならば△、下回っていれば△）

項目	県平均比較	全国平均比較
国語への関心等	○	○
数学への関心等	△	△
理科への関心等	△	◎
総合的な学習の時間への関心等	◎	◎
規範意識	○	○
自尊感情	◎	◎
言語活動・読解力	△	△
生活習慣	△	△
学習習慣	○	○

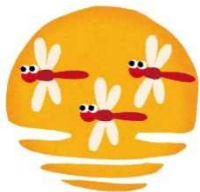
- 「国語への関心」については、「国語の授業の内容がよく分かる」生徒が県・全国の割合より上回った。一方、「読書は好き」と答える生徒が県・全国の割合よりも下回った。
- △「数学への関心」については、このテストでは「最後まで解答を書こうと努力した」生徒の割合が県・全国の割合より上回ったが、普段の授業で「解き方が分からないとき諦めずにいろいろな方法で考える」「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く」等の割合が県・全国より下回った。
- 「理科への関心」については、「自然の中で遊んだことや自然観察したことがある」「理科室で数多く観察や実験を行っている」と答える生徒の割合が県・全国の割合より上回った。しかし、「自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりする」と答える生徒は県平均を下回った。
- ◎「総合的な学習の時間への関心」では、「自分で課題を立てて情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」生徒が県・全国を圧倒的に上回る。
- 「規範意識」では、「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」生徒の割合が県・全国を上回った。一方、「学校の規則を守っている」と答える生徒は、県・全国より下回った。
- ◎「自尊感情」では、「自分には、よいところがあると思う」生徒の割合が、県・全国を若干上回っている。「学校に行くのが楽しい」と答える生徒も県・全国を上回っている。
- △「言語活動・読解力」については、「友達の前で自分の考えや意見を発表することが苦手」「考えを人に説明したり文章に書いたりすることが難しい」と思う生徒の割合が、県・全国よりもかなり多い。
- △「生活習慣」については、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」生徒の割合が、県・全国よりも少ない。
- 「学習習慣」については、「家で宿題をしている」という生徒の割合は県・全国よりも多し、「授業の予習をしている」という生徒の割合は、県・全国よりも少ない。
- ◎「その他」として、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」をはじめ、「地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」「新聞をほぼ毎日読んでいる・週に1～3回程度読んでいる」等と答える生徒は、県・全国よりもかなり多い。「葵流祭」体育の部や文化の部で味わう達成感・成就感、持続可能な社会について考えている「天城学習」、新聞を活用した「NIE教育」等により、これら結果が表れていると考えられる。



【改善点】

「言語活動・読解力」については、「書くこと」については、前ページの改善点のとおりである。

「話すこと」については、ここ数年来の大きな課題である。「授業で自分の考えを発表する機会を与えること」、「話し合う活動やかかわる活動を行い、自分の考えを深めたり広めたりする機会を設けること」等の取り組みを、各教科の授業や学級活動、道徳等でさらに行っていく必要がある。また、一定の成果を上げている「天城学習」においても、生徒が問いを持って追究し、それをまとめてよりよい情報発信できるように、丁寧に指導を行っていきたい。



★お気づきの点などがございましたら、お聞かせください。